（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月1日※1
（前回公表年月日：令和3年7月1日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
中央工学校	昭和51年6月1日	松田　正之	〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目26番17号 （電話）03-3906-1211
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人　中央工学校	昭和39年3月19日	堀口　一秀	〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目26番17号 （電話）03-3906-1211

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	機械設計科	平成17年3月3日 文部科学大臣告示第30号	―

学科の目的	機械業界に必要な知識と技術を教授し、実務的で豊かな社会性を有する技術者を養成する。また、機械技術と職業分野との関連性を理解し、機械設計技術者に必要な基礎知識を身に付けた上で自動化が進む生産システムの構築に対応できる技術者の育成を目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2340時間	234時間	0時間	2106時間	0時間	72時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20人	9人	0人	4人	3人	7人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 ○成績基準は、80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、59点以下をD（不合格）とする。 ○成績評価は、試験・実習・出席学習態度の総合的評価とする。
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■夏　季：8月1日～8月31日 ■冬　季：12月25日～1月7日	卒業・進級条件	■進級条件 ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 ■卒業条件 ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 補習授業等（3ヶ月以上は休学）	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭・体育祭実行委員会 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 機械業界 ■就職指導内容 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等 ■卒業者数　7　人 ■就職希望者数　7　人 ■就職者数　：　7　人 ■就職率　：　100.0　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　100.0　% ■その他 ・進学者総数：　0　人 （内訳） 大　学　：　0　人 専門学校：　0　人（内 学内進学　0人） その他　：　0　人 ・関連分野のアルバイト数　：　0　人 ・関連分野以外の就職者数：　0　人 （令和　4　年度卒業者に関する 令和5年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種 / 受験者数 / 合格者数 SOLIDWORKS 認定アソシエイト / ③ / 7人 / 4人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　3　名　■中退率　15.8 % 令和4年4月1日時点において、在学者19名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者16名（令和4年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 （例）学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学習意欲低下 ■中退防止・中退者支援のための取組 （例）カウンセリング・再入学・転科の実施等 入学前の進路確認、担任面談による指導		

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　有 ※有の場合、制度内容を記入 学校法人中央工学校奨学金による支援体制があり、無利子で100万円を上限としている ■専門実践教育訓練給付:　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科のホームページURL	URL:www.chuoko.ac.jp URL:www.chuoko.ac.jp/architecture-course-design.html

(留意事項)
1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の目的は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は明治42年の設立以来一貫して工業技術教育を行う専門学校として、技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。

指摘を受けた内容について、各教育系WGにて詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松田　正之 （委員長）	中央工学校　校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	
土田　俊行 （副委員長）	中央工学校　教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	
渡辺　敏幸 （土木・測量分野学外委員）	職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会　富士教育訓練センター教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	①
小林　　徹 （造園分野学外委員）	公益社団法人日本エクステリア建設業協会　埼玉県支部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	①
吉田　照司 （機械・CAD分野学外委員）	川口機械工業協同組合　理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	①
加藤　道雄 （土木建設科学外委員）	株式会社シーエスエンジニアズ　理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
田代　友幸 （土木測量科学外委員）	中原建設株式会社 総務人事グループゼネラルマネージャー	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
荻原　高志 （造園ﾃﾞｻﾞｲﾝ科学外委員）	株式会社楽月園 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
吉原　史郎 （機械設計科学外委員）	ヨシモトポール株式会社　課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
柳田　千晴 （3D-CAD科学外委員）	株式会社セイロジャパン　課長代理	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	③
大古　敦子 （工業第二教員室　学内委員）	中央工学校　工業第二教員室　主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年）	
川西　浩 （工業第二教員室　学内委員）	中央工学校　工業第二教員室　教員	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	
若泉　　栄 （事務局）	中央工学校　教務課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

本校は二期制のため、前・後期の節目となる時期を定めて年2回教育課程編成会議の開催を原則とする。

（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（7月、12月）
（開催日時（実績））
第1回　令和4年7月6日　16:00～18:00
第2回　令和4年12月7日　16:00～18:00
第1回　令和5年7月5日　16:00～17:30（予定）

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
教育課程編成委員会により出された意見は、翌年度の教科構成などに反映をさせる。前年度委員会において意見や改善を要する案件が挙げられた。主なものは次の通り。
[指摘事項]
・樹脂の加工が多いようだが金属加工をすることも必要である。加工させる材料を検討することが必要である。
・3S(整理・整頓・清掃)の指導を行っておいた方がよい。

[結果]
・旋盤を使いアルミ材による部品加工を行った。本年は時間の都合で単品の部品加工に終わったが、来年は加工した部品を集めて組み立てまでを行うようにしたい。
・3Sを実施するために、機械・工具等のレイアウト変更やラベルの設置を行い、実習室の整備を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があり、そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
連携を行う企業とは、職業教育協定書(教育事業受託契約書)を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。①カリキュラムの作成 ②講義及び実習の実施 ③講義・実習教材の作成 ④成績評価及び進級審議等に関する助言 ⑤その他の実習運営上に必要となる事項

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な2科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
設計製図Ⅱ	設計製図を通して、工作機械に不可欠な機構・構造と部品の寸法精度等の実務的技術を習得することを目的として、企業の講師の指導の下、実習を行う。	株式会社　エフィー
卒業制作	工作機械の設計変更をとおしてその機構、構造を把握すると共に製図力の向上と必要な解析計算ができるようにする。	株式会社　エフィー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で、高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。

校長に承認を得た者は企業等と連係の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。また、夏季特別勤務期間における企業と連携した研修を認めている。

これらについては、「教員等の研修に関する規定」に定められ、運用されている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「鉄道設備生産工場の視察」(連携企業等: 吉原鉄道工業株式会社)
期間:令和4年8月1日(月)　　対象:三橋　幹宏・川西　浩・小松　基路・枡沢　裕基
内容:鉄道用設備(分岐器・遮断器等)の製造現場を視察し、その加工方法(鍛造・転造等)についての知識を深める。

研修名:「自動車部品生産工場の視察」(連携企業等: テイケー工業株式会社)
期間:令和4年8月4日(木)　　対象:三橋　幹宏・川西　浩・小松　基路・枡沢　裕基
内容:自動車部品の製造現場を視察し、その加工方法や工程について知識を深める。

研修名:「3Dプリンターを活用した設計製作」(連携企業等: 株式会社 エフィー)
期間:令和4年4月1日(木)～令和5年3月31日(木)　　対象:川西　浩
内容:ラジコンの1/12ホイルローダーの設計を行い、3Dプリンタを使用して作成する。

研修名:「サーフェスモデリングとSTLデータの編集の一考察」(連携企業等: 株式会社セイロジャパン)
期間:令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)　　対象:小松基路
内容:サーフェスモデリングとSTLデータの編集の一考察、そのデータ作成方法や活用方法について知識を深める。

②指導力の修得・向上のための研修等

・該当者なし

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「サーフェスモデリングとSTLデータの編集(応用)の一考察」(連携企業等: 株式会社セイロジャパン)
期間:令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日)　　対象:小松基路
内容:昨年に引き続きサーフェスモデリングとSTLデータの編集について実践に耐えうるデータ作成と活用方法について考察する。

研修名:「機械加工における切削条件と面性状の関係について」(連携企業等: 有限会社吉喜製作所)
期間:令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日)　　対象:枡沢　裕基
内容:機械加工に関する自己のスキルアップと、切削条件と面性状の関係性についての知識を深める。

・工場見学会　随時実施、参加

②指導力の修得・向上のための研修等

・教授力向上研修(専門学校コンソシアムTokyo主催)
・インストラクショナルデザイン研修(専門学校コンソシアムTokyo主催)
・模擬授業(中央工学校　教育課程編成委員会)
・教員研修発表(中央工学校　研修委員会)
・その他　指導力の修得・向上のための研修会への参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。

また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の教育理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色はあるか ③社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが、学生・保護者・関係業界等に周知されているか ⑤各学科の教育目標・育成人材像・特色は、業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③各規程等は整備されているか ④地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑤教育活動に対する情報公開が適切になされているか ⑥情報システム化等により業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか ②各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか ③授業評価の実施体制はあるか ④関連分野の企業等の連携により、カリキュラムの編成・見直し等が行われているか ⑤成績評価及び進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑥教職員資質向上の為の研修が行われているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	①就職・進学に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか ⑤課題活動に対する支援体制は整備されているか ⑥保護者との連携は構築されているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ②実習施設・インターンシップ等について充分整備されているか ③防災に対する体制は整備されているか ④防犯に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③学納金は妥当なものになっているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生の地域活動を奨励しているか ③地域に対する体験教室・職場体験の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	①留学生の受入れについて明確な方針のもと、適切に行われているか ②留学生の受入れ・在籍管理等は、厳正になされているか ③留学生の学習・就職支援のために、有効な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会委員長より、以下の総括を頂き今後の、改善の参考にしてゆく。
令和4年度における学校運営について、自己評価結果の報告を受け学校関係者として評価を行った。新たに改善された項目、あるいは一部検討を要する課題も見受けられた。学校関係者評価委員からの適切な助言を参考に、引続き学生が質の高い教育を享受できるよう学校運営の改善に努めてほしい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松尾　真之介	株式会社MAKE AND SEE	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
齋藤　琢郎	清水建設株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
小松原　学	職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会　富士教育訓練センター	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
鈴木　　護	株式会社 アルプス技研	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
エンピ　カンデル	ユニバード株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
小栗　孝康	中央工学校　同窓会　相談役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生
小林　克也	東京都立工科高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	教育関係者
清水　克行		令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	保護者
鈴木　健一	岸町一丁目町会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校には平成19年10月に発足した中央工学校人材育成後援会がある。主要行事として定例役員会(9月)・定例総会(10月)・新年講演会(1月)が行われるが、その際校長から学校概要・運営指針等を報告し、実務教育及び教員研修における連携について依頼する。

また、各学期の節目となる時期を定め、各教育系による分科会を行い、関連する企業等及び外部講師への情報公開を行い、意見聴取と必要な改善を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①建学の目的 ②基本的運営方針 ③重点管理指針
(2)各学科等の教育	①具体的方策 ②各学科の重点管理項目 ③外部に対する情報公開
(3)教職員	①教員資質の向上のため教員研修の充実 ・新入職員研修 ・中堅教職員研修 ・教員研修 ・留学生指導勉強会 ・教職課程研修会 ・校外研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②総合建設実習、総合測量実習による屋外実習 ③企業等と連携した校内実習
(5)様々な教育活動・教育環境	①学生満足度の向上 ・新入生アンケート ・卒業生アンケート ・学生による授業評価 ・成績概況 ②資格取得支援 ③外部に対する情報公開
(6)学生の生活支援	①体育祭・飛鳥祭を中心とした楽しい学校づくり ②クラブ・同好会運営委員会によるクラブ活動 ③指導主事を中心とした生活指導 ④進学を含んだ適正な進路指導
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・授業料・施設維持費・同窓会費) 入学時　1,280,000円　・　進級時　1,062,000円 ②修学支援 学校法人中央工学校奨学金制度
(8)学校の財務	①資金収支計算書 ②事業活動収支計算書 ③賃借対照表 ④収益事業(賃借対照表・損益計算書) ⑤監査報告書
(9)学校評価	①自己評価書・公表 ②学校関係者評価・公表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	①保護者との連携 ②専門学校との連携 ③教育機関との連携 ④防災対策の整備 ⑤個人情報の保護

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:www.chuoko.ac.jp

授業科目等の概要

（工業専門課程　機械設計科）令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎数学	電卓操作が確実にでき、数値の取り扱い方そして設計計算で必要となる力学の基本である三角関数の技術計算が確実にできるようにする。	1通	39		○			○			○	
○			合宿研修	合宿研修を通して、集団規律の重要性を認識し、時間厳守・整理整頓を心がけるとともに、協調性を重んずる心構えと態度を養う。	1後	(36)				○		○	○		
○			合宿研修	1年次の体験をもとに、規律の重要性を認識し、自主性・積極性を活かした良識ある行動を重んずる心構えと態度を養う。社会へ巣立つにあたっての大人としての良識ある行動を実行できる心構えと態度を養う。	2後	(36)				○		○	○		
○			工業材料	機械に使用する材料の機械的性質、材料記号、用途について理解できるようにする。	1前	18		○			○			○	
○			基礎製図法	機械製図法の基本を習得し、機械図面の読解及び作成ができるようにする。	1前	18		○			○		○		
○			材料力学	はりにかかる荷重と応力の基本的な考え方とその計算方法、そして曲げとねじりを受ける軸径の計算とそのひずみ量が計算できるようにする。	1通	57		○			○		○		
○			機械要素技術	締結要素、伝達要素、軸受、巻掛け伝動等について理解し、その設計計算と正しい使い方ができるようにする。	1通	39		○			○		○		

○			機械工作技術	製作図作成上必要な各部品の切削加工・鋳造加工・塑性加工方法について理解できるようにする。	1後	21		○			○		○		
○			油空圧回路	油圧・空気圧機器の種類と用途とその図記号を理解し、簡単な回路図が読めるようにする。また、アクチュエータの実際の動作を理解する。	1後	21		○			○		○		
○			メカトロ機構設計	メカトロ機構設計に必要な基礎知識とメカトロ要素技術の基本概念を理解する。	1後	21		○			○		○		
○			コンピュータ実習	ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションソフトを使用したビジネス文書の作成方法を習得する。	1前	54		△		○	○		○		
○			基礎製図実習	JIS B 0001機械製図に基づき基本的な機械図面の描き方と2次元CADの操作方法を習得させ、CADによる機械図面を描けるようにする。	1前	378		△		○	○		○	○	
○			スケッチ製図	スケッチ製図を通して身近な工業製品の組立図、部品図を描きながら機械製図の作図力を習得する。	1後	189		△		○	○		○		
○			設計製図Ⅰ	ヘリカル減速機の設計製図を通して歯車、軸、軸受などの機械要素部品の設計方法と計画図、組立図、部品図などの製図力を向上させる。	1後	315		△		○	○		○	○	
○			制御回路実習	制御回路の概念と電気回路の基本、自動機械の制御に必要な各種アクチュエータについて理解、制御し、その選定と基本的な回路が組めるようにする。さらにPLCのプログラミング作成ができるようにする。	2通	234		△		○	○			○	
○			設計製図Ⅱ	卓上ボール盤の設計製図をとおして工作機械の基本設計と機械要素部品の設計及び計画図、組立図、部品図の作成方法を学ぶ。	2前	324		△		○	○		○	○	○

○			３ＤＣＡＤ実習Ⅰ	3次元CAD（SolidWorks）の基本操作とモデリングを通して2次元図面を正確に3次元化する基礎技術を学ぶ。	2前	54		△		○	○			○	
○			３ＤＣＡＤ実習Ⅱ	3次元CAD（SolidWorks）の応用操作を習得し、2次元図面から正しい3次元モデルを作成する応用技術を学ぶ。	2後	117		△		○	○			○	
○			卒業制作	各種工作機械をテーマに原則として2次元CADによる設計変更を施し、計画図、組立図、部品図、強度解析計算書を作成すると共に製図力の向上と必要な解析計算ができるようにする。	2後	441				○	○		○	○	○
合計				23科目	2340単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の修業年限以上を在学し、定める教育課程を履修した者は学習評価の上、卒業を認定する。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	20週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。